

牧草と園藝



夕張市沼川字観内一〇六六
雪印種苗株式会社

中央研究農場

雪印種苗株式会社

チモシー品種の使い分け

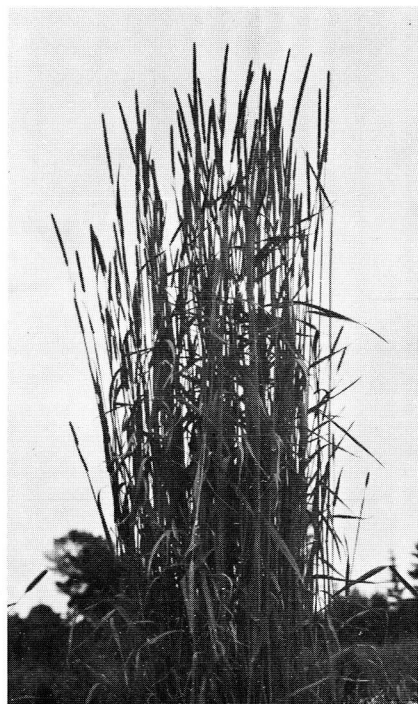
チモシーは耐寒性が極めて強く、寒冷地や高冷地において乾草調製に用いられてきましたが、最近では若刈りを行ってサイレージに調製したり、あるいは春から秋までの放牧草として利用されたりして、用途が広く品種に対する要求も高まっています。

品 種 名	主 な 特 性	早 晩 性			用 途	
		早生	中生	晩生	採草	放牧
北海道在来種	早生、直立性で採草地に適する。	○			○	
クライマックス	出穂が3～4日遅く多様で採草型である。		○		○	
北 王	早生で2～3番草の再生も早い採草型。	○			○	
オムニア	出穂茎数少く、多葉性で再生が良く放牧型。		○		○	○

上記3品種は、いずれも直立性で草丈高く伸長し、1番草の収量多く採草型に属します。北海道在来種と北王は早生品種で、6月中旬（道東、道北では中下旬）に出穂しますから、赤クローバ中生品種「ハミドリ」「サッポロ」などと刈取時期が一致し好適です。またオーチャードグラスの晩生品種「ヘイキング」などとも丁度一致し、いわゆる中期刈用混播組合せの中に入れられます。この組合せは北海道内において最も一般的であり、3回刈りにより最多収をあげている例が多いようです。

クライマックスは出穂が遅れるので、赤クローバ晩生種の「マンモス」「アルタスエード」「ベスタ」などと混播し、2回刈取りに用いるのが有利です。この場合はいずれも1番草の収量が極めて多く、2番はその1/3程度しか期待できません。

オムニアは出穂茎数が少く多葉性で、再生が旺盛であり、上記3品種と異なり放牧草の特性を有しており、ヨーロッパでは採草放牧兼用品種として普及しています。夏から秋にかけての再生が良く、乳牛の嗜好性も良好です。



クライマックス



左 北海道優良品種に決った北王 右 放牧タイプのオムニア